

公表：令和3年3月31日

事業所名：子ども育ちの家「て・い・く」

		チェック表	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。		○		活動によっては、プレールームの他に学習ルームや児発室を個別支援のために活用している。人数によっては屋内と屋外に分けて活動を提供している。	裏の空地を利用して、菜園や丸太サーキット、各種球技が楽しめる場所を設置した。菜園では季節の野菜を収穫している。新たに自転車コースをつくった。子どもたちも一緒に環境づくりをしたいと考えている。
	②	職員の配置数は適切であるか。		○		4月から指導員3名、保育士2名の体制で、児発・放デーともに支援内容の充実を図っている。	個々のスキルアップのため所内研修の充実と一般研修への参加体制を整える必要がある。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。			○	危険防止のため、家具の配置や支援室の柱、窓ガラス、突起物等にはクッション材を付けるなど、安全面に配慮している。	安全マットを敷いたり、柱や角にぶつかり防止剤を貼って安全面に配慮している。さらに些細なことでも安全面に関してはヒヤリハット表等の取組が必要である。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○		職員ミーティングで当日の活動内容や利用者一人一人の目標及び課題について共通理解を図っている。	毎月、定例の会議と研修会を実施するようにした。勤務シフトで全職員が参加できないのが課題である。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	○			保護者向けアンケート、連絡帳、一斉メール等によってニーズを把握し、また事業所の方針等を伝えている。	今年度から定期的に適活動内容を知らせるようにした。併せて、内容の充実を目指したい。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	○			令和3年3月の便り及びホームページに公開する。	ホームページの更新が滞っている。自己評価の公開に併せて充実していきたい。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		委員は選出しているが利用者が少なかったので開催していない。コロナの状況が落ち着く頃をめどに開催を予定したい。	現在、ほぼ定員を満たした状況である。コロナ禍の状況を見計らいたい。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○			職員の人材育成及び利用者に対するスキルアップの向上を目指し、研修には勤務を調整して参加するようにしている。また、月に1回程度、事業所内でも実施している。	食後の休憩時間等も活用している。発達障がい児初級資格講座等にも参加し、資格取得を目指している。

⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			個別支援計画は、保護者の同意を得て、小中学校（担任）にも公表している。保護者、保育園（幼）との三者連携が欠かせないと考えている。	個別支援計画は、保護者の同意を得て、保育園（担任）にも見ていただいている。今年、アセスメント表を新たに作成した。
⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○			日々の活動をとおして利用者の特性を把握し、支援計画を立てている。今後は独自のアセスメントツール作成して支援計画に生かしたい。	4月からはアセスメントシートを活用してモニタリングや連携会議に臨む。
⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		今年度も週及び月単位で活動計画を立てている。作成時は職員ミーティングで内容を検討している。	一週間日替わりでプログラムを決め子どもや保護者に知らせている。季節の行事や文化的行事は利用者の意見を尊重して計画を立てている。
⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			事業所では四季の文化的行事を大切にしている。また、郊外の社会教育施設も活用している。	週のプログラムを基本にしながら、天候等によって室内・屋外活動と柔軟性を持たせている。
⑬	平日、休日、長期休業に応じて課題を決め細やかに設定して支援しているか。	○			社会見学や体験活動を踏まえた施設利用を長期休業中に取り入れている。異年齢集団による活動は有意義な成果を上げている。	放課後等デイサービスは、学校の教育活動と連動し、週及び月単位、学期単位で支援計画を作成するものと認識している。
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス支援計画を作成しているか。	○			支援計画の項目には個別対応と集団的活動を入れている。よって、適宜、子どもの様子で組み合わせている。	4年目になり、利用者も伸び伸びと過ごせている。今後も、ロールプレイングを毎週取り入れ、個別活動に重点を置く。
⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○			毎朝の職員ミーティングで活動内容と個別の目標を共有している。また、利用者の状況に併せて活動グループも編成している。	勤務の関係で、時間の確保が課題である。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		ほぼ毎日、一日の活動の振り返りを行っている。できなかった場合は、職朝ミーティングで行う。	短い時間を有効活用しているが、それでも時間が不足する場合がある。
⑰	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			記録はその日のうちに欠かさずにとるようにしている。	日々の記録は全員で執り振り返り時に情報を共有している。

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	○		学校や保育園等との連携会議に併せて支援計画やアセスメント表を提示し情報を共有することが多かった。	進路選択時は、利用者に係る支援ネットワーク会（移行支援）を確立していきたい。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか。		○	週計画をもとに、天候や年齢、男女等の参加状況に応じて複数用意し、利用者が選択できるようにしている。	一定の評価や検証をして、今後ともさらに内容を充実させる。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○		自発管だけでなく、担当者が作成したアセスメント表等も参考に会を実施している。	相談事業所に要請し、必要に応じて関係機関との連携会議を開催することもある。
関係機関や保護者との連携		学校との情報共有（年間計画・行事予定当の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		利用開始前には小中学校に必ず出向き、送迎者の顔合わせはもとより、敷地内の安全確認、緊急時の連絡等は徹底している。また、便り配付のため、月1回は必ず管理職にあいさつをしている。	送迎だけでなく、事業所における活動内容や利用者の様子等も学校側に知らせる。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。		○	現在、看護師の配置もなく、専門的な知識もないので、安全上から医療的ケア児の受け入れは考えていない。	職員配置等の人的体制が課題である。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業等との間に情報共有と相互理解に努めているか。		○	保護者及び相談支援事業に要請を受け、小学校の入学時に他事業所と訪問し、福祉と公教育の情報共有に努めた。	移行支援として、今後も積極的に取り組む。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	開所4年目で、福祉事業等へ就労した利用者はいない。しかし、そうなった場合、移行支援は重要であると認識している。	該当の利用者がいた場合は必ず移行支援会議を開催する。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○	西区では定期的に発達支援ネットワークを開催している。毎回、職員で参加している。また、熊本市主催のステップアップ研修等にも参加している。	外部機関等の要請には常に応じて指導助言を受ける体制である。研修等には今後とも積極的に参加する。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や障害のない子どもと活動する機会はあるか。		○	近隣小学校の育成クラブはいずれも100人を超えており、小規模な当該事業所とどう交流するかは今後の課題である。	保護者や当該事業所からの依頼があれば、可能な範囲で実施する。

②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。			○	協議会から障がい児通所支援事業所への参加の要請は現時点ではない。あれば是非、参加したいと考えている。	案内があれば出席する。開催状況等の情報が不足している。
②⑧	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			日々連絡帳をとおして、家庭における子どもの体調等を把握し支援に臨んでいる。事業所での活動については、詳細に記載して家庭に知らせている。	連絡帳の提示がなくても活動状況やその日の様子は必ず伝える。また、今年から保護者一斉メール等を活用して情報の共有に当たっている。
②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか。			○	定期的に講師を招聘して、「りょういく懇談会」を開催しているが、今年はコロナ禍の影響で、「療育懇談会」を見送っている。	保護者に、療育の専門家を紹介し、当事業所で個別面談を実施している。この先も行う予定である。
③⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○		契約時に資料等を提供し、十分納得、了承を得た上で利用契約をしている。	説明資料を精査し、内容の理解に努める。
③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。		○		保護者の要望に応じて、外部から療育の専門家を呼んで、発達検査や個別の療育相談会を実施している。	当事業所の特色として、今後とも内容を充実させる。
③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。		○		昨年度は保護者会&ペアレントトレーニング研修会を実施したが、今年はコロナ禍の影響で、「療育懇談会」を見送っている。	今後とも定期的に実施し、保護者の声を真摯に受け止めながら事業所運営に反映したい。
③⑬	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			保護者の依頼による関係機関(学校)との連携会議には必ず出席している。突発的な依頼にも迅速にやい旺している。	個人情報保護の範囲内で事業所内における活動の様子を提示する。
③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			事業所便りを定期的に発行し、保護者、関係機関、地域等に配付している。	月1回の配付を目指し、充実した内容にする。(開所当時から9号)
③⑮	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	○			個人情報に関する同意書を保護者と交わしている。その際、個別支援計画の提示(連携のための資料)や画像の取扱い等について承諾を得ている。	ホームページを作成しているので、活動紹介等については今後とも十分配慮する。

	③⑥	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		日々の連絡帳や、Eメール等で利用者の体調等について保護者と情報を共有している。	緊急時の連絡等をリアルタイムで行う場合は、Eメールが欠かせない。今後も活用していきたい。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		計画していた行事のほとんどが中止になってしまったが、規模を縮小して行った。餅つきでは、ついた餅を近隣のご家庭に配布した。	グランドゴルフや伝承遊びなどが一緒にできるよう調整している。
非常時の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成しているが、保護者へは知らない。HPや便りをとおして周知したい。訓練は火災訓練のみなので今後は、不審者対応訓練も取り入れていきたい。	ホームページや便りをとおして周知する。避難訓練は火災のみなので今後は、地震や不審者対応も実施したい。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に火災訓練を実施している。今年は災害避難計画等のマニュアルも新たに作成した。職員への周知を徹底するとともに、利用者の意識向上を図っていきたい。	AEDも完備しているので、地域の方への講習会や周知を図りたい。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		県北の同業事業所で児童虐待があったときはすぐに虐待防止法の研修を実施した。併せて職員の倫理綱領も一読した。	利用者への言葉づかいや支援の有り様には互いに注意を払い、職員間で共通理解を図っている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス支援計画に記載しているか。	○		入所時、身体拘束に関する同意書を保護者から取っている。その際、本人及び他の利用者の安全確保をするための最低限の対応をする場合があることについて同意を得ている。	同意書には当該事業所の責任者と個々の利用者に担当を割り振って自覚を促している。個別支援計画には、事前の聞き取りにより、必要に応じて支援計画に記載する。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食事の提供はしていない。また、食アレルギーについては入所時に必ず確認している。	食アレルギーについて確認はしているが、おやつ等の提供もあるので、保護者とさらに連携していく必要がある。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		事例集まで至っていないが、報告書は作成している。現在、利用者も増え送迎も含めリスクは高くなっているため、常に細心の注意と自覚を怠らないようにしている。	小さな事でもヒヤリハットの作成と定期的に内容を検証して事故防止に努める。

その他	熊本市手をつなぐ育成会の活動をご存じですか。		○	もちつき会のもちやパンの配付、活動のお知らせ（便り）など	手をつなぐ育成会の理念に基づく運営を目指しているが、認知不足である。広報活動に力を入れる必要がある。
-----	------------------------	--	---	------------------------------	--